

今号は本誌第1号で紹介しました南・北都留地域教育推進連絡協議会の主催、共催事業を中心に各情報を提供致します。連携を中心にした様々な活動がなされております。

＜南都留地域教育推進連絡協議会総会・講演会＞

「子どもたちの教育は地域全体で担う」

日時：6月23日(水) 場所：富士ふれあいセンター大研修室
◎総会：「子どもの教育は地域全体で担う」を柱とし、学校、保護者、地域、行政等が更に連携を強めていくことが確認されました。

◎講演：筒井潤子先生(都留文科大学准教授) [概要]

「カウンセリングマインド・・・改めてその意味を考える・・・」

カウンセリングでは、カウンセリングを行う大人や援助者のこころの状態が一番大切です。役職に就いている人は規則、慣例等に基づき常に緊張感がつきまっています。このような人こそ自分の気持ちを覗いて、自分を楽にし、自分をいたわることが必要です。



「赤ちゃん部屋のお化け」とは？

・・・赤ちゃんが親に抱かれている状況を赤ちゃん部屋と呼びます。親が不安や恐怖心を持つような心的状況の場合、この赤ちゃん部屋にお化けが出てくるそうです。親の声の高低や強弱、抱いている力の微妙な加減が赤ちゃんに伝わり、お化けとなって出てきて、赤ちゃんを不安にさせると言われています。このことはカウンセリングと同じです・・・。

＜北都留地域教育推進連携協議会「明日の風」総会＞

「未来へのかけはし 北都留教育の発展」



日時：7月2日(金) 場所：大月市民会館 3階講堂

◎歓迎アトラクション：「空手道 演武」

上野原空手スポーツ少年団 日本大学明誠高等学校空手道部

◎総会：石井由己雄大月市長を会長に「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」のスローガンのもと、「望ましい環境づくり」に向けて各種団体、行政、地域住民の連携が確認されました。

◎地域連携実践交流会：

1. 実践発表

- ①『小菅人をはぐくむ会』 発表：小菅村教育委員会 奥秋一俊 様
PTA、育成会、村民会議等と連携し子供の体験活動を実施しています。
- ②『シオジ森の学校』 発表：下沢直幸 様 山田 茂 様
「小金沢シオジ森」を中心に、豊かな自然・森をフィールドにして子どもたちが様々な体験しています。



2. 連携交流発表 ①四方津小学校 帝京科学大学の陸上競技指導 ②大月西小学校 田んぼづくり
③大月短期大学 講座「大月学」 ③丹波小学校 ささら獅子舞

<第6回伊藤知治教士剣道教室> (主催)

日時：5月23日(日) 場所：猿橋小学校体育館

昨年度は新型インフルエンザのために開催を見送った剣道教室ですが、今年度は時期を例年より早め、5月の開催となりました。警視庁の名誉師範、伊藤知治教士の姿に子どもたちは憧れの眼差しを向けていました。



小学校1年生の豆剣士から、高校生まで約120名が一堂に会し、大きな声で活動する姿に剣道を通した縦の連携の姿が見えました。また、大月市上野原市、都留市、西桂町からの参加という点で横の連携ともしっかりとかみあった教室でした。



<富士吉田地区小中高連携連絡会議> (主催)

日時：5月17日(月) 場所：富士吉田市民俗博物館会議室



富士吉田地区では、小中高の連携を深めるために、連携連絡会議を実施しています。今年度も富士吉田市教育委員会教育長の秋山勝彦氏、教育研修所所長の渡辺治男氏、各小中高の校長先生が参加し小中高連携に関わる話し合いが行われました。今年度は「発達障害の子供への対応について」研究を進めるという確認がなされ各小中学校、高等学校、支援学校の養護担当の先生方が学習を深めています。

<第1回南都留地区特別支援学級担当者学習会> (共催)

日時：4月22日(木) 場所：禾生第二小学校

南都留特別支援学級担当者研究会はふじざくら支援学校(地域のセンター的な役割を担っています。)の協力を得ながら、特別支援学級を担任している先生方に学習と相談の場を提供しています。その第1回、第2回目の学習会が行われました。

第1回目は、都留第一中学校の益田文教先生の実践、
「主体性や思いやりの心をはぐくむ」

～学区内の小学生との交流および共同学習を通して～ について、

第2回目は個別の支援計画のたてかたと分科会に分かれての学習会でした。



今年度の富士・東部教育事務所のスタッフ

所長 : 小泉 克行
副所長 : 中野 訓和
次長 : 堀内 好臣
総務 : 勝俣 秀文 佐野 友子 三枝 富昭
学校教育 : 渡邊 綱男 降矢 俊彦 村上 憲司 宮下 俐 小林 誠二
地域教育 : 野尻 正人 小俣 一夫 田辺 洋利 小川 弘一
ことぶき勸学院 : 分部 美盛 小池 恒正
ことぶき勸学院大学院 : 三枝 康治

